



産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 20 日

茨城県知事 殿

提出者 大林神栖バイオマス発電(株)
住 所 茨城県神栖市奥野谷 6170-23
氏 名 代表取締役 長瀬 有弘
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0299-94-3871

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大林神栖バイオマス発電株式会社
事業場の所在地	茨城県神栖市奥野谷 6170-23
計画期間	令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	電気業
② 事業の規模	送電量 209,846MWh
③ 従業員数	11 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・ばいじん 中間処理後、再生路盤材として再資源化または埋立。・燃え殻 中間処理後、埋立。・安定型混合廃棄物 中間処理後、焼却、埋立、リサイクル。・汚泥 中間処理後、脱水固化。

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<p>(管理体制図)</p> <p>廃棄物処理統括責任者：発電所長 廃棄物に関する各種事項の決定・承認</p> <p>廃棄物処理担当：技術統括部 部長 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 運搬・収集・処理業者の選定 監督官庁への報告 廃棄物処理計画の作成</p> <p>技術統括部 スタッフ 産業廃棄物管理票の交付・管理 その他関係する事項</p>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項・・・別紙1のとおり			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 燃え殻・ばいじん・金属くず・安定型混合廃物・廃油・汚泥を分別するとともに、他の廃棄物が混入しないように保管している。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記の取り組みを継続していく。		

(第3面)





自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項・・・該当なし

① 現状	【前年度（ 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項・・・該当なし

① 現状	【前年度（ 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)





自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項・・・該当なし

① 現状	【前年度（ 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項・・・別紙2のとおり

① 現状	【前年度（ 4 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		





②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第 6 面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	【前年度（令和４年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻	金属くず	安定型混合廃棄物	汚泥	がれき類	木くず	ガラス・陶磁器屑	
	排出量（ｔ）	7,528.41	129.38	4.52	21.06	49.17	2.96	2.02	2.00	
①現状	（これまでに実施した取組）									
	・ボイラーの燃焼調整により、ばいじん・燃え殻の排出量低減に努めた。									
	【目標】									
	産業廃棄物の種類	ばいじん	燃え殻	金属くず	安定型混合廃棄物	汚泥	がれき類	木くず	ガラス・陶磁器屑	廃油
	排出量（ｔ）	10,121	218	33.9	16.9		19.2	4.4	11.0	0.9
②計画	（今後実施する予定の取組）									
	・引き続きボイラーの燃焼調整により、ばいじん・燃え殻の排出量低減に努める。 ・有価物として売却可能なものは売却し、廃棄物の排出量を抑制する。									

